



学校だより



8・9月号

令和5年(2023年)

8月28日(月)

横浜市立洋光台第二小学校

9月、リセット、再スタートの時

学校長 のむら 野村 ひかる 光

「9月は、グレゴリオ暦で年の第9の月にあたり、30日間ある。夏と秋の境目とした季節である。」

令和5年の夏は本当に暑い夏となりました。そのことは様々な数値にも表れています。「暑さ」に関する今年の気象データを調べてみると、東京都心の35℃以上の猛暑日は、暦の上では秋が始まる「立秋」の8月8日に17回を数え、昨年16回を超えて統計史上で最多の記録を塗り替えたようです。涼しいイメージの北海道でも、8月23日に札幌で観測史上最高気温36.3℃を記録しました。海に近い横浜は東京都心より若干気温は低いのですが、それでも夏休み直前の7月18日には、7月の観測史上最高気温の37.3度を記録しました。この暑さは日本だけではなく7月の世界の平均気温も、観測史上最高になる見通しが明らかになったようです。「地球沸騰化の時代が到来した」と発表した、国連のグテーレス事務総長の言葉は記憶に新しいところです。

夏の暑さを倍増させるセミの声にも例年との違いを感じました。私が子供のころの横浜では、ニイゼミの声に夏の訪れを感じ、そして盛夏を通してアブラゼミが鳴き、8月中旬のお盆を過ぎたころ、残暑を惜しむようにツクツクボウシが鳴き始める…このツクツクボウシの声を聞くと夏休みの残りの宿題が気になり始めたことを思い出します。しかし今年の夏は、このツクツクボウシの声を既に7月の終わりに聞きました。加えて、以前は関西などの西日本に行かないと耳にしなかったひとときわ大きいクマゼミの鳴き声も、今では横浜の街中で聞くことが珍しくなくなりました。

そんな暑い暑い、今年の夏休みも終わりました。今年は4年越しに行動制限のない夏となり、地域でも久しぶりに縁日や祭りなどのイベントが再開されました。8月初めの洋光台四丁目の夏祭りから始まり、中央団地自治会、四街区、そして8月最終週に実施された田中の夕涼みフェスタ、栗木のふれあい納涼まつりまで、学区の公園や神社で開催された夏祭りは大変活気にあふれ、コロナ禍前の勢いが戻ってきたことをうれしく思いました。そして、何よりも参加している子どもたちの笑顔がとても印象的でした。

夏の全国高校野球選手権も開催されました。第105回大会の今年は慶応高校が107年ぶり2度目の優勝を果たし、幕を閉じました。一人ひとりの球児たちからはテレビには映らないこれまでの努力がその勇姿から感じ取ることができました。夏休みに入る前の朝会で子どもたちに、「今年の夏は普段できないことに挑戦する夏にしてほしい。」という話をしました。どのようなことに挑戦できたでしょうか。きつと一つ一つの経験は、一人ひとりの成長につながったはずです。

9月は新たなスタートの時です。子どもたちには、休みの間に養ってきた力を学校生活で大いに発揮してほしいと思います。令和5年酷暑の夏の日々が、実りの秋、食欲の秋、スポーツの秋…一人ひとりの充実した秋に繋がることを願っています。

第五類に移行して扱いが少し変わった新型コロナウイルス感染症ですが、まだまだ陽性者数はゼロにはなっていません。秋は運動会や個別級の宿泊学習、そして音楽会…と大きな行事が続きます。感染症拡大防止のために手洗いやうがいの継続等、各家庭と連携しつつ子どもたちの健康管理を行っていきます。また、残暑の中、運動会の練習も始まります。熱中症対策に配慮した活動をしていきたいと思えます。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

●学校カウンセラーの相談を希望される方は、学校までご連絡をお願いいたします。

【洋光台第二小学校 045-833-1271 児童支援専任 井坂】

●困っていることや悩み、「いじめ」等に関する相談を24時間受け付けています。

『24時間子どもSOSダイヤル』 0120-078-310(フリーダイヤル携帯可)